

ダムの効果事例について③

平成 29 年九州北部豪雨における勝本ダムの事例

勝本ダムは、長崎県壱岐市、二級河川谷江川水系後川川にある重力式コンクリートダムです。

平成 29 年 6 月 29 日から 6 月 30 日にかけての九州北部豪雨災害をもたらした豪雨により後川の上流域で大規模な出水が発生しました。勝本ダムには、最大流入量約 60.8m³/s が流入しました。

勝本ダムの洪水調節によって、最大流入時の放流量を約 15.3m³/s に調節し、下流河川の水位低減を図りました。

勝本ダムはこの洪水調節により、ダムマニアや愛好者らからなる「ダムアワード 2017」において、国内のダム約 2800 基のうち、今期もっとも印象に残った洪水調節を行ったダムを賞する洪水調節賞を授賞しました。

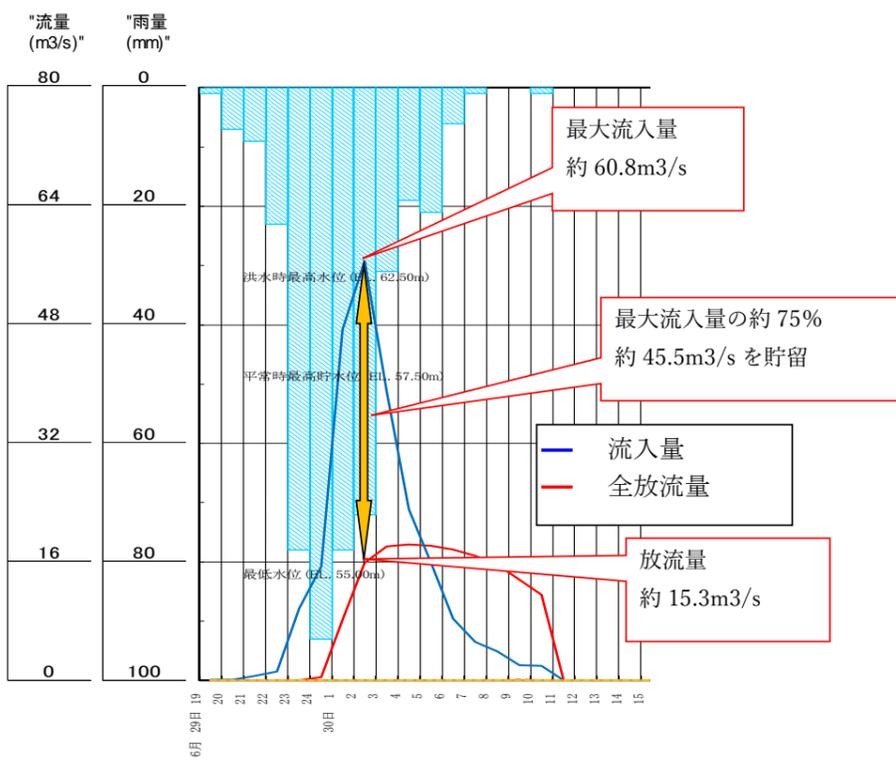


勝本ダム位置図

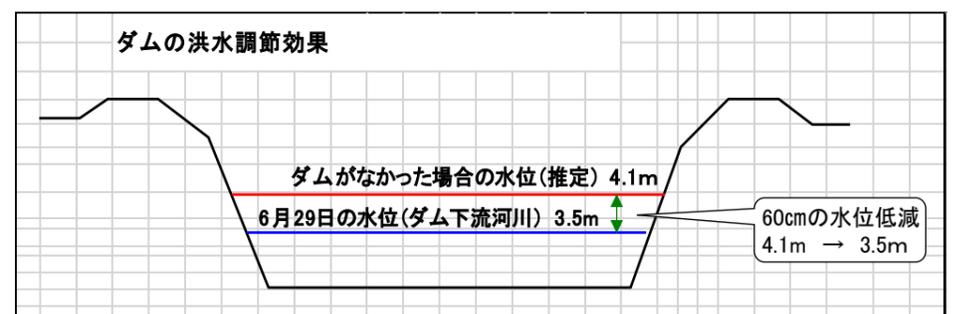


平成 29 年 6 月 30 日撮影
提供：国土交通省九州地方整備局

九州北部豪雨直後の勝本ダムの状況



勝本ダムの流量ハイドログラフ



勝本ダムによる水位低減効果（竹末橋上流地点）
竹末橋地点の水位は、仮にダムがなかった場合、今回の最高水位より 60cm 水位が高く 4.1m となったと推測されます。



（左写真）竹末橋から下流側の様子
計画高水位に達しており、ダムがなかった場合、水位が護岸天端を超えたと推測されます。